作庭記に記録されている「教典」の新情報

New Information regarding Chinese Classics mentioned in the Sakuteiki (Heian-period *Records of Gardening*).

武居二郎*、マーク・ピーター・キーン**

Marc Peter Keane

* 京都芸術大学名誉教授、** 〒600-8018 京都市下京区河原町四条下ル寿ビル 5F

Key Words : 1. 祇園図経 Jp. *Gion zukyō*, Ch. *Qiyuan tijing*, Eng. *Gion Illustrated Text*
 2. 不動儀軌 Jp. *Fudō giki*
 3. 不動明王 Jp. *Fudō Myōō*, Skr. *Acalanātha*
 4. 大正新脩大蔵経 Jp. *Taishō Shinshū Daizōkyō*, Eng. *The Taishō Buddhist Canon*

摘 要

作庭記に掲載されている『祇園図経』と『不動儀軌』という2種の経典についての新しい情報を報告する。

Summary: New information regarding two sutras found in the Sakuteiki; the *Gion zukyō* and the *Fudō giki*.

1. 研究目的

作庭記には『祇園図経』⁽¹⁾と『不動儀軌』という経典が掲載されている。しかし、いままでの作庭記についての出版物には、その二つは正確にどの経典か（例えば、大正新脩大蔵経の何番か）は明確にされていなかった。作庭記の英訳をしている際、我々がそのデータを発見したので、下記報告にする。

2. 『祇園図経』⁽²⁾について

作庭記の始めには次の句がある。「殿舎をつくるときその莊嚴のために山をつきしこれも祇園図経にみえたり。現代語に訳すと「御殿を造るとき莊嚴さを増すために築山を造ったと、祇園図経に書かれている」⁽³⁾。その後、「樹事」の中「凡樹は人中天上の莊嚴なり。かるがゆへに孤獨長者が祇園精舎をつくりて。佛に奉らんとせし時も樹のあたひにわづらひき」と書かれ、つまり「樹木というものは人の世や佛世界にあって、莊嚴な雰囲気醸し出すものである。このため孤独長者が祇園精舎を造って佛に捧げようとしたときに、そ

の予定地に生えている樹木の価格をどれだけに評価すべきかで悩んだ」⁽⁴⁾。祇園の山または樹木は庭園の莊嚴の好例として挙げているが、『祇園図経』にはどういう風に「山」と「樹木」が見えるかは、作庭記には説明がない。おそらく、作庭記の著者は、読者が『祇園図経』の内容を当然知っていると考えたために、説明を付しなかったのだろう。

『祇園図経』の編集者は道宣⁽⁵⁾という唐時代の学僧であり、南山律宗⁽⁶⁾の初祖であった。道宣が書いた数多くの書物の中には、祇園⁽⁷⁾を述べている経が『大蔵経』に取り入れられている。その経は『中天竺舍衛國祇洹寺圖經』という⁽⁸⁾。おそらく、作庭記に述べている祇園図経はこれである。経の中には、「山」と「樹木」が下記のようにみえる⁽⁹⁾：

『中天竺舍衛國祇洹寺圖經・大正新脩大蔵経』Vol.45, No.1899, p.887a12-21

【原文】

東西夾殿大樹莊嚴。冬夏常榮重陰蔽日。殿内簷下角内有二香山。是往古毘婆竭羅龍王所造。初成之日始由乾陀山高半山王凡夫所見止高一丈二尺。其形一同須彌。半要以下全用金銀。頂有大池。四面獸頭◇（片+犬）等阿耨達池。山有樹林花◇（果+草冠）。山王四面莊嚴皆用四寶（寶？）所成。山色多有紫檀牛頭沈水等樹。花如車輪。凡夫見者止如錢大。至六◇（齋？）日花悉開。水流下地都不見。山所有樹木皆能說法。山下九龍

常吐香雲出水香潔。

【現代和訳】

東と西の夾殿（別殿）には、素晴らしい樹木があり、それは冬でも夏でも常に繁茂する。その樹木の木陰が太陽を隠すほど深いのである。殿内には二つのいい香りがする山がある。これは以前、龍王⁽¹⁰⁾によって作られたものである。実際は、その山が半山王⁽¹¹⁾の高さであるのに、一般の人々には4.0メートル⁽¹²⁾にしか見えない。その山の形は丁度須弥山に見え、下半は金と銀で出来ていた。山の上には、大きな池があり、四面には獸頭（動物の頭）が配置され、阿耨達池⁽¹³⁾のように見える。山の四方は、莊嚴を表現するために、四つの宝がある。そして樹木、花、果物などがあり、その中紫檀、牛頭と沈水がある。⁽¹⁴⁾車輪のような形をした花は、一般の人々にとっては銭の大きさにしか見えないが、祭日⁽¹⁵⁾の6日間、綺麗に咲く。流れている水は全て地下に消えて行く。山の中に住む九つの龍が常に香りのいい雲と清潔な香りのいい水を出す。

【英訳】

Within the eastern and western annex palaces, there are magnificent trees, which grow in winter and summer. The shade of the trees is so heavy they completely block the sun. Under the roof of the palace there are two fragrant mountains, which were built in the past by the Dragon King, Pibojieluo. Though it is the height of Mount Ghanda, in the eyes of ordinary people, it does not look higher than a quarter of a meter. It is shaped exactly like Mount Sumeru; the lower half being made entirely of gold and silver. On the top [of the mountain] is a huge pond with animal heads on its four sides, making it look like Lake Anavatapta and its sides are decorated with four treasures. There are trees, flowers, and fruits on the mountain including *zitan*, *niutou*, and *chenshui*. The flowers are shaped like cartwheels, and in the eyes of ordinary people they are no larger than coins, and flower beautifully on the six monthly Days of Fasting. All of the water flows underground and disappears. All the trees on the mountain are capable of preaching *dharma*. The

nine dragons that dwell beneath the mountain issue fragrant clouds and savory, clean water.

『中天竺舍衛國祇洹寺圖經・大正新脩大藏經』Vol. 45, No.1899, p.888 c22-27

【原文】

前殿西樓臺内上層有六十四須彌山。並以青白碧玉三色共成。山下周海七寶爲岸。大山中有八十億眞珠樓觀。隨觀各有佛成道降天魔。轉法輪般涅槃等像。隨山王上各有百千諸佛國土。中心山頂有大寶樓。

【現代和訳】

前殿の西樓閣の一番上の層には、六十四の須弥山がある。青、白と碧色になっている。その山を囲む海の岸は七つの宝で出来ている。中央の山には、眞珠で作られている樓觀が八十億棟ある。各樓には（釈迦の）仏像があり、中には「成仏」「降魔」「轉法輪」「般涅槃」がある⁽¹⁶⁾。各須弥山⁽¹⁷⁾には様々な仏國が十万もあるし、中央の山の頂上には大きな宝樓閣がある。

【英訳】

On the top level of the western mansion in the front palace are sixty-four Mount Sumerus, all of which are decorated green, white, and blue. The shores of the seas surrounding the mountains are made of seven treasures. On the central mountain there are eight billion mansions made of pearls and each mansion is [decorated] with the pictures featuring the [Śākyamuni] Buddha attaining the way, subduing deities and devils, turning the *dharma*-wheel, and entering *Parinirvāṇa*. On each of the Mount Sumerus there are one hundred thousand Buddha Kingdoms, while at the top of the central mountain there is a great treasure mansion.

3.『不動儀軌』⁽¹⁸⁾について

作庭記の「瀧の落ちる様々を云う事」の中には、下記の句がある。

【原文】⁽¹⁹⁾

「不動明王ちかひてのたまはく。瀧は三尺になれば皆我身なり。いかにいはむや四尺五尺乃至一丈二丈をや。此の故に必三尊の姿にあらはる。左右の前石は二

童子を表するなり。不動儀軌云。見我身者 發菩提心。
聞我名者 斷惡修善。故名不動云々。」

【現代和訳】⁽²⁸⁾

「不動明王が誓って言われたことは、90cm以上の高さの滝はすべて私のからだである。いわんや1.2メートル、1.5メートル、或いは3.0メートル、6.0メートルの滝はなおさらである。だから滝の形は必ず不動三尊の姿になるのだ。左右の前石は二童子をあらわすのだろうか。不動儀軌に云う。我が身を見る者は菩提心^{ぼだいしん}を發し、我が名を聞く者は惡を断ちて善をおさめる。故に不動となづける、云々。」

【英訳】

「Fudō Myōō has vowed that “all waterfalls over 90 centimeters in height are expressions of my self.” Needless to say, those of 1.2 meters, 1.5 meters, 3.0 meters or even 6.0 meters are also symbolic of Fudō. All waterfalls are surely expressions of a Buddhist Trinity: the two flanking stones, to the right and left of the dominant stone, probably represent the Buddha’s attendants. According to the Rituals of Fudō: “Those who see my form, aspire to enlightenment. Those who hear my name, reject evil and master virtue,” and so forth.」

『不動儀軌』をサンスクリットから中国語に翻訳したのは、不空^{ふくう}⁽²⁹⁾という北インド生まれの唐時代の僧。不空は真言宗の第六法祖であり、かれが弟子の恵果^{けいこ}にその教えを伝え、恵果^{けいこ}が空海^{くうかい}に伝えたが、空海が例の祇園図経を日本に持って帰ったかどうかは不明である。佛書解説大辞典⁽²³⁾により、『不動儀軌』の日本での最初の記録は988年であり、その年^{ちやうねん}奮然⁽²⁴⁾という東大寺の学僧が中国の四川⁽²⁵⁾から持って帰った。⁽²⁶⁾『大蔵経』に含む『不動儀軌』は正式に、『勝軍不動明王四十八使者祕密成就儀軌』⁽²⁷⁾という経である。作庭記にある句はその経に出る「四弘願」からとった、最初の二つの行である。全部は下記の通りである。

勝軍不動明王四十八使者祕密成就儀軌 大正新脩大蔵経, Vol.21, No.1205, p.33c4-6

【原文】

見我身者 發菩提心

聞我名者 斷惡修善
聞我說者 得大智慧
知我心者 即身成佛

【現代和訳】⁽²⁸⁾

我が身を見る者は菩提心^{ぼだいしん}⁽²⁹⁾を發し
我が名^{みょう}を聞く者は惡を断ちて善をおさめる
我が説法^{せっぽう}⁽³⁰⁾を聞く者は大智慧を得る
我が心を知る者は即身^{ただし}において成仏⁽³¹⁾する

【英訳】

Those who see my form, aspire to enlightenment.

Those who hear my name, reject evil and master virtue.

Those who listen to my teachings, gain vast knowledge.

Those who come to know my true spirit, will experience sudden enlightenment as Buddhas.

【脚注】

◇=不明な漢字。Ch.=中国語。Eng.=英語。Skr.=梵語。

- (1)『谷村家本』や『群書類従本』には『洹蘭圖経』がある。
- (2)『祇園図経』についての情報は、京都東洋文化研究センターの前所長Antonino Forte氏にいろいろと教えていただきました。
- (3)『作庭記：現代語対訳と解説』武居二郎 京都 京都芸術短期大学 1995 p.46
- (4)『作庭記：現代語対訳と解説』武居二郎 京都 京都芸術短期大学 1995 p.79
- (5)道宣 (Ch. Daoxuan 596-667)
- (6)南山律宗 (Ch. Nanshanlü, Southern Mountain branch of Vimaya)
- (7)祇園 (祇園、Ch. Qiyaun、Skr. Fetavana)
- (8)『中天竺舍衛國祇洹寺圖経』(Ch. Qiyuan tijing, Eng. Gion Illustrated Text) 大正新脩大蔵経, Vol.45, No.1899。
- (9)『大蔵経』から英語への翻訳は、京都東洋文化研究センターの研究員、陳金華氏 (Mr. Chen Jinhua) によるものである。日本語への翻訳 (原文と英訳か

- ら)は武居とキーンによる。
- (10) 龍王：毘婆竭羅、Skr. Pibojieluoもしくは、Skr. Pibhakara.
- (11) 半山王：Ch. Banshanwang, Eng. Mount Ghanda
- (12) 4メートルというのは、「一丈二尺」(Ch. yizhang erchi)で表現され、唐時代には、一丈は3.0メートルまたは3.6メートルの二つの基準があった。つまり、「一丈二尺」は、3.6メートルか4.32メートルであった。
- (13) 阿耨達池あのくだち：Skr. Anavatapta、無熱、清涼という意味。須弥山しゅみせん(Skr. Sumeru)の南である、人間の住む世界、閻浮提えんぶだいという島(洲)の中にあると伝えられている池のことである。
- (14) 紫檀(Ch. Zitan, Pterocarpus indicus)、牛頭(Ch. niutou, unidentifiable)と沈水(Ch. chenshui, unidentifiable)。
- (15) 祭日(齋日)ふさつ：布薩(Skr. *posadha*)6日間の断食などの儀式の期間である。
- (16) この四つは、釈迦如来に関わる四つの大切な出来事。
- (17) この場合、須弥山は、「山王」として表現されている。
- (18) 不動儀軌については、高野山大学図書館の跡部まさあき氏にいろいろと教えていただきました。
- (19) 『作庭記：現代語対訳と解説』武居二郎 京都 京都芸術短期大学 1995 p. 23
- (20) 『作庭記：現代語対訳と解説』武居二郎 京都 京都芸術短期大学 1995 p.61
- (21) 不空ふくう(Skr. Amoghavajra, Ch. Bukong 705~774)
- (22) 恵果けい か(Ch. Huiguo, 746~805);
- (23) 佛書解説大辞典 小野玄妙 Vol.2, p.238
- (24) 翫然くわねん(938~1016)
- (25) 四川(Ch. Sichuan)中国の南西部の省。
- (26) 仏書解説辞典、Vol.5, p.355b. 偽作の疑いがあることも述べる。
- (27) 勝軍不動明王四十八使者秘密成就儀軌(Ch. *Shengjun Budong mingwang sishiba shizhe mimi chengjiu yigui*, Eng. *Secret Rituals for the Realization of Victorious Fudō Myōō's Forty-eight Messengers*)
- (28) 現代語訳は武居二郎と不動研究者Robert Duquenneによるもの。
- (29) 菩提心ぼだいしん 1. 悟りを求め仏道を行おうとする心。無上

道心。「発一」。2. 密教で、悟りの根元的な心。『広辞苑』

- (30) 説法せっぽう 1. 仏法の教えをとききかせること。「釈迦に一」
2. 一般に、理屈を説いて聞かせること。意見すること。『広辞苑』
- (31) 成仏じょうぶつ 1. 〔仏〕煩惱を断じて悟りを開くこと。仏になること。『広辞苑』